

## 芸術学系

教員数	教員等数 (人)	教授 23 (22)	助教授 20 (21)	講師 15 (16)	助手 2 (2)	技官〔準研〕 3 (3)
	異動状況 (人)	退職・転出 5 (7)	昇任 5 (2)	採用 3 (4)	学内 0 (0)	
研究活動	研究発表 (件)	論文・著書発表数		学会発表数		
		国内	国外	国内	国外	
	457(445)		20(6)	36(46)	4(6)	
	受賞数	5(2件)				
	研究費等	採択件数		採択率(%)	金額(千円)	
		科学研究費	7(7)	33.3(31.8)	16,700(28,800)	
		学内プロ	13(13)	46.4(38.2)	7,020(7,632)	
奨学寄附金件数・金額		5件	2,150千円	(4件	3,458千円)	
受託研究件数・金額		2件	6,000千円	(2件	1,920千円)	
受託研究員		1人(1人)				
施設・設備						

・( )は前年度の数値を示す。

### 1 芸術学系の活動

- (1) 研究活動については上の表から分かるように、論文・著書が国内国外とも増え、学会発表は若干減少した。各種受賞は前年度の2件から5件に増えた。科学研究費は逆に7件から4件と減った。なお、外部資金総額は依然少ないものの、受託研究費は増加した。
- (2) 施設整備については、新しいクラフト領域の授業が平成15年度より開始されるため、学系工房棟の整備が緊急の課題であった。これについては芸術専門学群及び芸術研究科とも協力して予算を重点的に設備にあて、概算要求等努力した結果、学長裁量経費が認められ、工房棟の一部改修が実現した。これによって、ガラス、木工の研究・授業が可能となった。
- (3) 現在本学で進行中の筑波大学キャンパスリニューアル計画に前年度に引き続いて学系として積極的な協力をした。アート計画では彫塑作品等の設置、サイン計画では中央口シンボルゲート、第一学群棟外装改修に伴う色彩計画等を担当した。また、学生参加による学生食堂、休憩室のリニューアル、さらに新総合研究棟や体育総合実験棟の基本デザイン、附属病院周辺の植栽計画等に本学系教員が協力した。
- (4) 芸術資料の収集に関しては前記彫塑作品に加え、学長室に河口龍夫教授の作品が設置され、また、本学卒業生でデザイナー・教育者として活躍している勝井三雄氏から自選作品64点が寄贈され、収集した。卒業研究、修了研究の優秀作品を本年度も買い上げ収集した。
- (5) 研究成果は「芸術研究報」及び「芸術研究報・作品集」「芸術年報」(以上芸術学系)、「芸術学研究」(芸術学研究科・人間総合科学研究科芸術学専攻)を刊行し公開した。
- (6) 地域貢献に関して、体育の各組織と共同してプランを練り、具体的活動計画を策定した。
- (7) 人事の採用、昇任に関して新しい方法を試行的に採用し、競争的環境を強化した。

### 2 自己評価と課題

施設の緊急課題はとりあえず果たされた。人事に関しての試行は概ね予期した成果を挙げたと考えられる。また、地域貢献のプランは大学全体としても評価を得たと思われるが、実際の活動はこれからであり、構成員全員の意識をまとめていくことが重要と考えている。次年度は外部評価を実施することが決定しており、法人化への準備と併行して成功させなくてはならない。